

ご寄贈いただいた本やCD、DVDなどを紹介するコーナーです。

ほかほかソフト

BOOKS

新・なぜ脱原発なのか

【西尾 漠 著 / A5 版変形 p 184 / ¥1800+税 / 緑風出版】

元々は2003年に出されたものだが、福島原発事故を受けて全面増補改訂されたもの。著者の西尾漠さんは脱原発の全国ネットワーク紙『はんげんぱつ新聞』（創刊40年を迎えたことを本誌5月号でも紹介した）の編集長でNPO原子力資料情報室の共同代表をつとめている。この本は副題に「放射能のごみから非浪費型社会まで」とあるように、原発を止めても電気の供給は大丈夫なの



かに行った基本的なことから、放射性廃棄物の問題性や核燃料サイクルという虚妄など様々な角度からの問題を28のテーマに分けてQ&A形式でかみ砕いて解き明かしている。幅広い入り口を示す入門書と言える。

火を焚きなさい

【山尾三省著 / B6版 p191 / ¥1800+税 / 発行：野草社 / 発売：新泉社】

この10月に出版ばかりの新刊で、2001年に亡くなった三省の数多くの詩集や著作から、48編の詩と4つのエッセイを選び、それに画家 nakaban の漫画や布作家・早川ユミの解説を加えてまとめた本。

タイトルとなっている「火を焚きなさい」やしばしば引用される有名な詩「子供達への遺言・妻への遺言」、また「びろう葉帽子の下で」など三省のエッセンスに触れられる本だ。



C D



里山人 satoyaman

【かや小屋バンド / 全7曲 41分 / ¥1800 / ur0.link/MYrk】

中学生以下の子供達もベースやドラムを担当し左官屋さんのお父さんが歌う家族バンドの1st mini album。ゆったりしたレゲエ調のメロディにのせて彼らの生き方が歌われていて、気持ちよく踊れる音楽だ。岡山の里山で自給自足的な暮らしをし、毎年夏休み時には一家で夏の唄旅ツアーをしている。

新刊紹介

著者から・ぬでしまじろう

『もしも宇宙に行くのなら』

人間の未来のための思考実験』 (岩波書店)

私は1980年から83年くらいまで、東京西荻窪のほびつと村学校で、おおえまのりさんが主宰する「いちえんそうワークショップ」に参加していました。精神世界を旅するクラスです。そのご縁で、あばっちと「なまえのない新聞」に出会うことができました。

ずっと生命倫理の研究者をしてきたのですが、この新しい本では、これまでの専門にとらわれず、日頃世の中の動きに対して考えていることを書きました。人類が宇宙に進出する未来を想定して、そこから、いま私たちが地上で直面しているいろいろな問題を、目先の「現実」から離れて、根本から問いなおしてみました。人体改造の是非やロボット・人工知能との共生の光と陰、男と女、戦争と平和などの問題を、宇宙からの視点で考えてみました。以下がその目次です：

- 第1章 なぜ宇宙に行くのか？
- 第2章 宇宙で生きられる体をつく

る？

第3章 ロボット・人工知能の支援をどこまで受けるか？

第4章 宇宙で人間は人間を超えたものになる？

第5章 エイリアンと出会ったらどうする？

この本を書いていて、多くの心を打つ言葉に出会うことができました。たとえば第1章で紹介したアメリカの宇宙飛行士は、人間がエネルギーと資源を浪費し、環境を害し、互いに殺し合うという愚行をいつまでも続けていけば、人類の持つ潜在能力の開化を不可能にしてしまうと懸念を表明しています。同じく第1章で紹介したロシアのヴェルナツキーという学者は、いま生きている人々の一時的な快適さをつくり出すためだけに行われるような科学と技術の研究は、最高の善ではないと言いました。人間の地球生物圏との関わりはまだ理性的なもの



のではなく、略奪的、蕩尽的だと断じました。これは20世紀初めの言葉ですが、いまでも十分通じる鋭い指摘ですね。

いま行われている宇宙開発は、目先の経済的利益や国益が主で、それこそ理性的なものではないです。この本では、人類の理性の進化と文明の成熟につながるような宇宙への進出はどのようなものであるべきか、論じてみました。大好きなSF作品もたくさん取り上げながら、楽しく話を進めています。目的は、未来への想像力と希望を取り戻すことです。ご一読いただければ、うれしいです。